

総合演習「情報化社会の諸問題 ネット・リテラシー」

今日の「情報化社会の諸問題」は、インターネットを使った情報のやりとりにおいて留意すべき点を、「1. ネット上の情報から真実を知るには」「2. ネットで話をするときには」の2つにわけて考えます。

1. ネット上の情報から真実を知るには

意図しないデマ

インターネットの普及とWWWという技術によって、誰もが平等に情報を不特定多数に向けて発信できるようになりました。さらに検索エンジンの発達によって、今や何か疑問があったらすぐにネットで調べれば、たいいていのことに関しては答えが得られます。

しかし、その情報が真実であるかどうかは、何の保証もありません。情報の発信者は、何の責任も負ってはいません。ネット上での書き込みは気楽にできますから、ふだんの会話と同様に、あまり正確を期さずに情報を発信してしまったり、どこかで聞いた話をうのみにしてしまったりする傾向があります。しかし、ふだんの会話と異なるのは、ネット上に発信した情報は、思いもかけない人が読んでいて、その人がまたその情報を気軽に広めていくことです。これは「意図しないデマ」です。

ネット上の真実を見抜くには

では、どうすればネット上の情報が真実かどうかを知ることができるのでしょうか？信用できそうな人の言うことは、信用できるのでしょうか。これはいわゆる「権威」というものですが、権威をうのみにすると、悪意のある「権威」にだまされる可能性もあります。

ひとつの考え方は、「統計的」に正しいものをみつける、というものです。つまり、

- ・複数の、独立な情報源から同一の情報が得られた場合、その情報の信頼性はあがります。この場合、「独立」であることが重要です。互いに独立な情報源が、偶然同時に同じウソをつく確率は低いからです。これは、統計学の「大数の法則」です。
- ・独立なたくさんの聴衆から常に批判を受けて修正されている情報は、信頼性があがります。一人の人物や組織が批判を受け付けずに発信している情報は、「ひとりよがり」であり、信頼性が低かったり、あるいはその人物・組織の偏見を含んでいる、と考えられます。これは、「オープンソースソフトウェア」の考え方です。

上記のいずれも、インターネットの出現以前にはありえなかったことです。その意味で、インターネットを上手に使えるとより信頼性の高い情報が得られる可能性はあります。

2. ネットで話をするときには

「会話」と「講話」

「話す」という行為には、「会話」と「講話」があります（正式な名前があるかもしれませんが、私は知りません）。「会話」は当事者間で言葉をやりとりするもので、「講話」は話者から聴衆へ話を一方的に伝えるものです。「漫才」は、漫才師の間で「会話」をしているようですが、本来の目的は聴衆に話を聞かせることです。これは「講話」と考えるべきです。これに近いのが、当事者間で議論をしている様子を聴衆に見せる「パネルディスカッション」や「公開討論会」です。

会話と講話の違いは、会話では、疑問点をその場で聞き返すなどの方法で、相手との共通理解を作っていくことができるのに対して、講話ではそれができません。ですから、講話では、一度聞いただけ

でわかるように、より正確に、よりわかりやすく話す必要があります。

メールや掲示板は「会話」か

では、メールのやりとりは会話と言えるでしょうか？聴衆に向かって一方的に話すわけではないので、講話ではありません。しかし、「すぐには聞き返せない」という点では、会話でもありません。「文通」よりはいくぶん会話に近いものの、メールの手軽さから想像するほど「会話」ではない、ということができるでしょう。ですから、より正確に、誤解のないように書く必要があります。

掲示板でのやりとりも、相手が不特定なだけで、基本的には同じことです。ただし、相手が不特定ですから、共通理解はより作りにくいと考える必要があります。したがって、さらにわかりやすく、誤解の生じないように正確に書く必要があります。

「実名」・「匿名」・「無名」

掲示板やネットニュースなどの「電子フォーラム」には、実名を明かしているものと、匿名のものがあります。匿名のものには、さらにハンドルネームによって個人の同定（どの発言が同一の話者から発言されているかの特定）ができるものと、できないもの（発言者が皆「名無しさん」になっている）があります。ここでは、前者を「匿名」、後者を「無名」とよぶことにします。

「無名」の掲示板は、発言に責任を負う必要がまったくないので、無責任な発言や、日常社会のタブーを犯す発言（あからさまな差別発言など）が頻発します。そのため、「無名」の掲示板は反社会的なものとしてとらえられがちです。一方、「実名」や「匿名」の場合は発言者が同定できるので、発言者の日頃の発言から発言の信頼度を推測できますし、「実名」の場合は発言に責任を負わざるをえないこととなります。

しかし、特定の個人への攻撃（フレーミング）は、「無名」の掲示板ではほとんど起こりえません。それは、当たり前のことですが、攻撃相手の個人の特定ができないからです。また、たとえひどい言葉で攻撃されても、攻撃されたほうも「自分の人格が攻撃されている」という意識が希薄ですから、さほど傷を受けずにその場から逃げてしまうことができます。

一方、「匿名」の場合は、例えハンドルネームであっても個人が同定できるわけですから、ちょっとした行き違いでも「発言を責められた」のではなく「自分という人格を攻撃された」という感情をもちがちです。さらに、各参加者に「××という人物は、（日ごろの発言からして）こういう人物だ」という「人物像」ができてきて、その結果、発言が偏見をもって受け取られることにもなります。「実名」の場合は、各参加者の所属や身分も明らかなわけですから、このような偏見はさらに深刻で、フレーミングがしばしば泥沼化することになります。

また、長い間フォーラムが運営されていくうちに、「××氏は敵にしないほうがいい」とか「××氏は攻撃してもいい」という「雰囲気」が醸成されてしまうこともあります。これはつまり「いじめ」の構図です。このあたりは実社会と同じですが、ネット上でのやりとりは「会話」ではなく行き違いが生じやすいので、このような現象がより顕著に現れます。このように、「実名」「匿名」「無名」のそれぞれの特徴を知ってコミュニケーションに役立てる必要があります。

レポート

「ネット・リテラシー」を受け持ちの生徒に教えるとき、「何を」「どのように」教えますか？あなたの計画を、このプリント2～3枚程度の分量にまとめて浅野にメールで送ってください。宛先は asano@mis.hiroshima-u.ac.jp、表題は「総合演習レポート」としてください。期限は前期最後の日、7月31日24:00とします。